

1 研究の優れている点

- 課題性がある
 - ・ 教育的にみて価値があり、意味がある。
- 実用性がある
 - ・ 具体的な方法を示しているため、実施する場合、取り入れが容易である。
 - ・ 研究スタッフが所属する学校で取り組んでいる。

2 研究との関連事項 (1)

実態把握

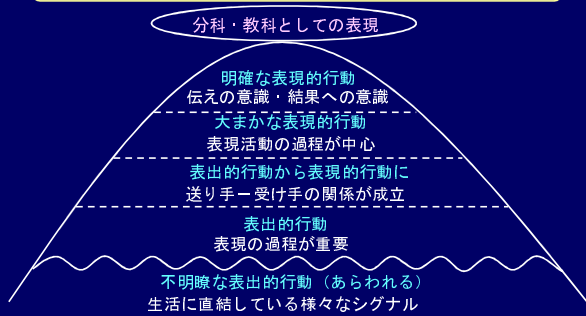
- 県立広島特別支援学校
 - ・ 広特版チェックリスト (試案)
 - 自立活動の6区分26項目に分けて実態把握する

区分	項目		Y	N	課題
健康の保持	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	覚醒と睡眠	学校ではあまり寝ることはない		
			はっきりと目覚めた状態で学習できる		
			周りに関心を示し、学習に参加できる		
	健康状態の把握	てんかん発作がみられない			
		アレルギー体質ではない			

参考：広島県立広島特別支援学校（平成27年）：平成27年度教職経験者（3年目）研修配付資料「自立活動学習指導案」

2 研究との関連事項 (2)

表出から表現



参考：松原豊（平成27年）：「子供のいきいきとした表現を引き出すために」『肢体不自由教育 第218号』日本肢体不自由児協会

2 研究との関連事項 (3)

「表現する力」を引き出す際の配慮

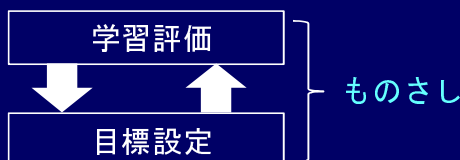
- 環境を整えること
- 個々の子供の実態に沿うこと
- 子供が示す表現を待つこと
- できるだけ自分の力で表現させるようにすること
- 褒めること

参考：遠山文吉（平成18年）：「表現する力を引き出す—子供の気持ちに寄り添うことによつて—」『肢体不自由教育 第175号』日本肢体不自由児協会

3 今後に期待すること (1)

校内での検証

教育目標・内容と学習評価を一体的に



参考：徳永豊（平成27年）：「特別支援学校における学習評価と授業改善について」『肢体不自由教育 第175号』日本肢体不自由児協会
 文部科学省（平成26年）：「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会 一論点整理—」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/houkokoku/1346321.htm

3 今後に期待すること (2)

評価基準 (ルーブリック)

- 尾道特別支援学校学習指導案 (一部抜粋)

目標	評価基準
見本を見て立体作品を一人で制作することができる。	A：見本なしで、自分で工夫しながら一人で立体作品を制作することができる。 B：手本を見て立体作品を一人で制作することができる。

評価基準 A：目標を大幅に達成できている基準。
 B：目標を達成できた基準。

参考：尾道特別支援学校（平成27年）：平成27年度教職経験者（3年目）研修配付資料「図画工作科学習指導案」